



Re-Sが育む未来

厳しい検査などによって自動車部品となる道を断たれたエアバッグ生地や車室内装用レザーなどの素材たち。2018年に始まった環境部主導の「もったいない活動」をきっかけに、これまで産業廃棄物として捨てられてしまったモノに新たな役目=命を吹き込み、価値あるものとして世に送り出したいという思いから2020年9月、Re-S(リーズ)というブランドが生まれました。スタートから4年、環境負荷低減を目指すべく始まったプロジェクトは、今では人や地域社会など、より広い視野で周りを思いやるブランドへと形を変え、3つのビジョンを軸に活動を進めています。



「Re-Sの目指す3つのVISION」



アップサイクルの独創企画・製品を先駆けて世に送り出します。特に命を守るエアバッグの生地は、強度や防水性に優れ、長く愛用できるライフスタイル雑貨として人々の環境意識に寄り添います。

独創と先駆



R02 多様なコラボレーション

アパレルブランド、障がい者施設、大学、エンタメ(お笑い芸人)とのコラボ商品や、プロ野球チームとの商品企画・販売・イベントを手掛けるなど、積極的にコラボレーションを進めています。



地場の産業を活性化させるため、業界の垣根を越えてパートナーとして活動しているほか、円頓寺本町商店街にRe-Sの店舗を構え、お客さまとのコミュニケーションを大切にしています。

地方創生



Re-Sに込めた思い

～エシカルな暮らしを広める～

「Re-use」や「Re-born」の「Re」から始まり、サステナビリティ「S」を高める。その思いをブランド名に込めたRe-S。自動車部品素材を活用したアップサイクル商品を通じて、人、社会、地球を思いやるエシカルな暮らしを応援しています。



より良い未来へ近づけるために、Re-Sは今まであらゆる企業や団体と連携を図り、活動の幅を広げていきました。今回、Re-Sと共に歩みを進めてくれているパートナーの皆さまに、我々との活動への思いを伺いました。

R01 独創と先駆 東洋紡株式会社

「アップサイクルの地産地消」をグローバル展開へ

2022年に創立140周年を迎え、日本の三大紡績企業の一つに数えられる東洋紡株式会社。エアバッグ領域への進出は1980年代と早く、業界に先駆けてエアバッグ用ノンコート布を技術開発しました。それがきっかけとなり、1993年以降、現在に至るまでTGにエアバッグ生地を供給し続けています。

エアバッグ生地の構造はシンプルですが、重要保安部品となることから、均一性など厳しい性能が求められます。エアバッグの新製品を開発する際は、並行して生地開発も必要となり、TGにとって東洋紡はエアバッグ製品の開発・製造



自動車の厳しい要求品質に応えるエアバッグ生地。一反(2メートル×600メートル)ごとに検品します

になくてはならない大切なパートナーの一社です。

実は、Re-Sが誕生する前、TGと東洋紡は共同で、エアバッグ生地の防護服を作っています。当時はコロナ禍にあり、防護服の足りない医療現場に寄贈したことで話題を集めました。このことがきっかけで、防水に優れたエアバッグ生地の新たな価値を両社は実感したのです。Re-Sがエアバッグ生地で本格的に製品開発を進めることになったときには、東洋紡は倉庫に眠っていた生地を快く提供してくれました。「エアバッグ生地は一反当たり幅2メートル×長さ600メートルもあり、一部



ポリエステルのコート布はプリントが可能。この生地があったからこそさまざまなコラボバッグは実現しました

お話を伺った方

東洋紡株式会社
エアバッグ事業統括部
エアバッグ営業部
部長 佐々木 敬介さん(左)
吉田 皓一さん(右)



に欠損などがあると数百メートルが使用不可となることがあります。シリコンが塗布された基布はシリコンの剥離が難しく、以前は廃棄されるのみでした。それを価値あるものとして活用していただけて、大変うれしく思っています」と佐々木さんと吉田さんは口を揃えます。

現在、東洋紡と共に活動を広げていけるよう、国内だけでなく海外の工場と同じように眠っているエアバッグ生地を日本に運んで製品化しています。さらにその先は、海外の現地で製品化する「アップサイクルの地産地消」を目指しています。



ゴルフバッグやスニーカーなど製品バリエーションが増えで感心しています。新しい企画をまたご一緒しましょう!

R02 多様なコラボレーション 中日新聞社メディアビジネス局

「ドアラ エアバッグトート」がドラゴンズファンの間でも話題に!

2021年11月、Re-Sが制作・販売するエアバッグトートシリーズに、中日ドラゴンズのマスコット「ドアラ」がプリントされたシリーズがラインナップ。ドアラとコラボレーションしたことで、Re-Sを多くの方に知っていただく機会となりました。

中日ドラゴンズのグッズのプロデュースを手掛けるのは、中日新聞メディアビジネス局ビジネスプロデュース部です。2018年から中日ドラゴンズのグッズのレポートを増やすために多くの企業と製品開発を進めてきましたが、コロナ禍で無観客試合になったことで売上は激減。次々とパートナー企業が撤退していくなか、



Re-Sのグッズは誰かに自慢したくなります。「エアバッグのアップサイクルで水に強く丈夫だよ」って

従来の製品開発体制からプロデュースする体制へ切り替え、中日ドラゴンズとの橋渡し役として地元企業の支援に力を注ぐことにしました。その頃、Re-Sはショッピングモールで販売する商品レポートを増やしたいと考えており、両社はすぐに意気投合。5カ月という期間で、ドアラをプリントしたエアバッグトートシリーズを実現し、発売へ至りました。

これを機に、Re-Sの販売チャンネルにバンテリンドーム ナゴヤのグッズ売店、中日新聞社直営ECサイト「中日新聞ドラゴンズショップ」も加わって、販路は大きく拡大しました。



もともと印刷を想定していない素材ですが、スポーツウェアの昇華転写プリントをヒントに商品化を実現しました

お話を伺った方

中日新聞メディアビジネス局
ビジネスプロデュース部
竹内 慎太郎さん



「Re-Sの製品はまさにアップサイクルの走り。無地のままでも価値はありますが、ドアラをプラスすることでドラゴンズファンがSNSで取り上げるなど、認知を広めるお手伝いできていることがうれしい。中日新聞にとっても価値あることだと思っています」と竹内さん。Re-S製品は一つひとつ手作りのため大量生産はできませんが「Re-Sの製品には強いメッセージ性があり、売上数は多くなくても世に与える影響はとて大きいです」とも語ってくれました。

今後は両社の関係性をさらに強めて活動範囲を広げていく予定です。



ドアラ エアバッグトートは地元メディアでも取り上げられるようになり、話題性が高まりつつあります

R03 地方創生 Hitsujigumo・Sun

誰もがいきいきと働ける場所を、地域と共に応援!

「障がい者の方が安心して働ける場所をつくりたい」と代表の宮崎 里美さんが9年前に立ち上げた就労継続支援A型* Hitsujigumo・Sun。羊毛フェルト雑貨づくりからスタートし、エアバッグ生地のリサイクルバッグの縫製などを得意としています。施設は昔ながらの多治見の商店街の一角にあり、地域にすっかり馴染んでいます。ガラス張りの施設の正面入口を入るとすぐ右手には、かわいらしいフェルト雑貨などが並ぶショップコーナー、併設する工房では利用者さんたちが縫製作



業などに集中しています。「就労支援の施設というと、人目に触れないような暗い場所をイメージされがちです。でも私は明るい所で楽しく作業ができる環境をつくりたかった」と宮崎さんは笑顔で言います。店名の「ひつじぐも」は羊毛フェルトとほんわかした雰囲気、「Sun」は日の当たる場所という意味が込められています。

宮崎さんとの出会いは約3年前。Re-Sのスタッフが縫製の委託先を探すなかでHitsujigumo・Sunを知りました。地元の銀行主催のマッチング事業で、廃棄されたエアバッグで傘袋などを作っていたことに興味を引かれたのです。固く縫いづら

※一般就労が難しい方に対して、就労機会の提供や訓練を実施するサービス
利用者さんと一緒に。宮崎さん(左から3人目)とRe-S担当の藤澤 和さん(経企 SDGs関連商品室 室長・同4人目)

お話を伺った方

Hitsujigumo・Sun
代表者
宮崎 里美さん



いエアバッグ生地の縫製経験があれば、Re-Sの委託先として理想的。でもそれだけではありません。障がい者の雇用に力を注ぐ宮崎さんの強い信念が、Re-Sの目指すものと合致し「ぜひパートナーになってください」とRe-Sから申し出ました。

「豊田合成という大企業から仕事をいただいたことで、利用者さんは今まで以上に仕事に責任感をもって頑張っています。障がい者の皆さんを支援しているつもりでしたが、豊田合成さんや商店街のご近所さん、いろいろな人に支えられているのだと改めて感謝しています」。



羊毛フェルトマスコットやエアバッグのアップサイクルなど、一つひとつ丁寧に制作しています。縫製レベルが高い!

ブルーファルコンのマスコットキャラクターも制作!これが縁で利用者さんは試合観戦にも出かけるようになりました。(上)
昔ながらの商店街の一角にあり、近所の方たちも応援してくれています。(中)

財布や鍵などの入れ物を探していたころ、シンプルデザインで機能的なRe-SのポーチをTG-NETで見発見。使い勝手が良かったので、海外外出する仲間にも送別記念としてプレゼントしました。良い商品が多いので、これからは誰が見ても「あっRe-S、この人おしゃれ」と思われるくらいのブランド力を確立させていってください!応援しています!

User's Voice

エコバッグやペンケースから、ポーチ、カードケースとラインナップも増え、幅広いお客さまにRe-S商品を知っていただき、ご愛用いただいております。

社内ユーザーさん

NAGONO
WORKBAR & SAUNA
店長さん



豊田合成ブルーファルコン
宮城 風太選手(左)
石嶺 秀選手(右)

リーグ優勝記念にブルーファルコンとのコラボバッグができて、重いものを入れてもとっても丈夫なので練習に行くときはいつも愛用しています!これは3連覇のときのバッグですが、今年は4連覇バージョンもできたので、皆さんも僕たちとお揃いでぜひ使ってください!(笑)

NAGONO WORK BAR & SAUNAの1階でRe-Sの店舗が始まり、バッグを購入。破れない・汚れにくい・濡れないの三拍子で使いやすいです!アシックスコラボの靴もかっこよかったので、スポーツブランドとのコラボ期待しています!(笑)

Re-S商品を身近に



Re-S 円頓寺STORE

商店街活性化を考え、名古屋駅近隣の古き良き下町の雰囲気広がる円頓寺本町商店街に「NAGONO WORK BAR & SAUNA」1階に店舗を構え、近隣のお客さま、遠方よりお越しただくお客さまと密なコミュニケーションを図っております。

【場所】名古屋市区那古野2丁目8-11 NAGONO WORK BAR & SAUNA1階

【営業時間】火～金曜 14:00～19:00 土曜 12:00～19:00

【定休日】日曜、月曜、祝日

※Instagram/Xで最新の営業時間をご確認ください



Instagram



X



LINE

オンラインショップは
こちら



販売店舗一覧

- NAGONO WORK BAR & SAUNA 1階 (円頓寺本町商店街)
- Yショップ稲沢駅前エントリオ店
- トヨタ産業技術記念館 ●トヨタ博物館
- トヨタ会館 ●ハンズ名古屋店10階「男の書齋」

コラボ商品販売場所

阪神甲子園球場
【販売商品】 HANSHIN Tigers プリントートバッグ
プリズマクラブ (バンテリンドーム ナゴヤ) / ドラゴンズストア ナゴヤ/ドラゴンズストア サカエ
【販売商品】 ドアラ エアバッグトート各種

Re-S円頓寺STOREのあるアーケード商店街には、明治から続く老舗店や、個性豊かな新しい店舗も次々とオープンしています。

ショップ周辺にもおすすめスポットがたくさんありますので、ぜひお立ち寄りください!

周辺MAP



1 多賀宮

商店街にある神社の一つ。中には願いが叶うかどうかを占う「おもかる石」が! 商店街に来た記念にぜひ。



円頓寺・円頓寺本町商店街

円頓寺・円頓寺本町商店街は名古屋でも最も古い商店街の一つとして、大須と同様に円頓寺の門前町として庶民に親しまれた街。江戸時代に「清洲越」によって城下町が造成され、明治20年代に円頓寺に商店街が形成、今も名古屋下町の人柄と昭和時代の懐かしい雰囲気が残っています。

2 松露堂

創業明治10年の和菓子屋。半生菓子のほかにも一つひとつ手焼きした「きんつば」も人気。

【営業時間】月～土曜 9:30～18:00 (木曜のみ17:00まで)、日曜定休



3 那古野商店

懐かしいレトロな店構えで「好きなものを好きなだけ」をコンセプトとしたテイクアウト専門店。惣菜の量り売りやバスケットチーズケーキが人気。

【営業時間】木～日曜 11:30～20:00(無くなり次第終了)、月～水曜定休



4 なごのや

1階はカフェレストラン、2階はゲストハウスを併設。昔ながらの味を受け継いだ名物タマゴサンドがおすすめ。

【営業時間】11:00～18:00(不定休)



5 名古屋甘太郎本舗

地元の人が長らく愛し続けるお好み焼きの老舗。お好み焼きはすべて100円台で、気軽に買って食べ歩ける商店街に欠かせないファストフード。

【営業時間】月～日曜 10:30～19:00 (木曜のみ17:00まで)、無休



Re-Sから生まれたご縁に感謝しつつ、パートナーさんと共にゴールを目指す

Re-Sの目標は、TG製品に関わる廃棄物を価値あるものへと生まれ変わらせ、廃棄物をゼロにすること。でもそれだけではありません。廃棄物をなくす活動が地域の活性化や発展を促し、豊かな未来を育てていくこと。それがRe-Sが目指す究極のゴールです。こうした活動の前例は自動車部品業界ではまだまだ少なく、いくつもの壁を打ち破りながら、独自の道をひた走ってきました。そんなRe-Sの考えに賛同し、応援して下さるパートナーさん

とのご縁に恵まれ、今のRe-Sがあります。まさにRe-Sはご縁に支えられています。実はRe-Sショップのある円頓寺本町は、豊田合成の前身「名古屋ゴム」の発祥の地である名古屋市区にあり、ここにも時空を超えた不思議なご縁を感じます。これからも、いろいろな方面へとご縁を広げつつ、街や地域の発展に少しでも貢献していきたいと思っています。Re-Sが誕生して約4年。ゴールまでの道のりは遠いですが、パートナーさんと共に、一步一步、

着実に前へと進んでいます。ぜひ従業員の皆さんやTGグループの皆さんにもRe-Sの活動を知っていただき、共に、豊かな未来を育てていければと思います。今後も応援よろしくお願ひします!

経営企画部 SDGs関連商品室
室長 山田 浩二さん

